

〔国際看護学海外研修報告〕

微笑みの国、タイでの海外研修を終えて

三並めぐる¹⁾ 河野保子²⁾ 吉村裕之²⁾

¹⁾ 人間環境大学松山看護学部 小児看護学領域

²⁾ 人間環境大学松山看護学部 基礎看護学領域

(依頼原稿)

はじめに

人間環境大学松山看護学部は、学部創設の際に、特色の一つとして「グローバル化する社会で活躍できる国際感覚を身に付けた看護人材の育成」を掲げており、学生は1年次、2年次に「国際看護学Ⅰ」と「国際看護学Ⅱ」を必修科目として学修する。その後、「国際看護学海外研修」(選択科目)を履修希望者に実施する。本年度は、2019年9月1日(日)～9月7日(土)に、昨年度事前視察を行ったタイ王国ラチャブリー市にある Boromarajonani College of Nursing (BCNR と略) で海外研修を行ったので時系列で報告する。

1. 準備

海外研修参加学生は、2年生3名、3年生4名の計7名(女子学生5名、男子学生2名)であり、引率教員は、河野教授(学部長)と三並教授(学生委員長)が担当した。

1月28日と29日に、まず、2、3年生に対して「国際看護学海外研修」に関する説明会を実施して、訪問国のタイ王国・BCNRの概要を説明した。4月23日に履修学生が確定したので、6月21日に海外留学生安全対策協議会(JCSOS)による海外渡航に関する注意等のガイダンスおよび海外旅行保険の説明会を開催した。その後、8月1日に第1回参加学生説明会を催し、海外研修日程の確認および保護者に同意書と誓約書の説明と提出を依頼、緊急連絡網、旅行代金および納入方法、事前レポートおよび事後レポート、成績評価について説明、安全管理と健康管理・暑さ対策、服装および持参品について指示をした。8月21日に保護者説明会(2年生1名 3年生3名 計4名の参加)を開き、海外研修日程説明と昨年視察した吉村裕之教授からのタイ旅行スライド説明とアドバイスが行われた。8月22日第2回学生説明会にて吉村裕之教授からのタイ旅行スライド説明とアドバイスおよび非常勤講師三原久美先生からの英語指導、日程の再確認、健康状態と服装・持参品等を確認した。さらに、直前の8月30日と31日にメールによる健康状態の確認をした。

2. 研修1日目：出国からタイ国ラチャブリー到着まで

9月1日(日)6:10に松山空港集合、全員健康状態に問題ないことを確認し、河野学部長から「実り多い研修になるよう一人ひとりがしっかりと目標を達成できるように学びましょう」という挨拶後、国際交流委員長(研修中の伝達・対応係)である吉村裕之教授と萬家順一事務部長補佐、JTB松山支社小川悠生様、学生のお母さま(2名)の見送りをいただき出発した。9:10羽田空港に到着、羽田空港到着ロビーには、今回私達に同行する目白大学准教授の河野理恵先生が出迎えに来て下さっていた。羽田空港国際線出発ロビーに移動、スムーズに出国手続きを行った。河野理恵先生はご自身の研究のためにBCNRから招聘状をいただいております、学生の授業等において必要時には英語通訳を依頼していた。

11:20 羽田空港出発、15:40バンコクのスワンナプーム国際空港に無事到着、日本との時差は-2時間で約5時間半あまりの旅であった。国際空港にはBCNRから国際部長のDr. Nongnuch Wongsawang女史と4名の教員と学生が出迎えてくださり、歓迎のレイをかけていただいた(写真1)。BCNRから差し回していただいたマイクロバス2台に分乗し、ラチャブリー市に向かった。交通事情もあるが、約3時間位かかるので、途中、大きなショッピングモールで夕食を済ませた。¥100バーツ(1バーツ=約3.8円)でカードを購入し、それぞれドキドキしながら、初めてのタイ料理を注文し、「辛い、甘い、酸っぱい」を体験した。カードの残額は返金される合理的なシステムであった。22:00にSSwissホテル到着しチェックイン、部屋に入ってもなく、3人部屋の一室のブレーカーが落ち(一度に電気の使い過ぎ?)、最初のハプニングに見舞われた。ホテル側が3人部屋を急には用意できないので、河野学部長が理恵先生の部屋に移動し、学部長の部屋に学生1人が移動した。

3. 研修2日目：大学訪問およびタイのコミュニティヘルスケアについての講義，地域の在宅高齢者訪問，BCNR学生との交流

9:00までに朝食を済ませ，ホテルから数分歩くとBCNRが現れた．一行が横断歩道に立っていても，車もバイクも全く止まる気配がない．車の流れを止めるためには，横断歩道に立ち，自分の身の安全は自分で守るという覚悟がないと道路は渡れない．二人乗りや三人乗りのバイクがヘルメット無しで，かなりのスピードで走っていて驚愕した．スリル満点で，カルガモの移動のように，やっと渡ることができた．また，バイクの積載人数の制限もないらしい．

9:10に到着，大学内の施設見学．その後，会議室に移動して，BCNRの大学教員と河野学部長がプレゼント交換を行った後，PPTとVTRで大学の紹介・説明を受けた．10:00からノン先生のタイでのコミュニティヘルスケアについて講義があった（写真2）．タイは，SAP（Service mind Analytical thinking Participation）の考え方のもと，統合的・人間的な看護ケアに力を入れているとのこと．病院で最期を迎える人よりも，在宅で最期を迎える人の方が多いため，自宅での看護ケアが求められている．しかし，医師も看護師も不足しているため，地域では約1万人のヘルスボランティアと呼ばれる方々が食事や排泄の介助などを行って看護師を支えながら医療を提供している．地域住民のためにヘルスケアがPDCAサイクルとして協働している．大学での看護教育の柱は，地域のコミュニティサービスの提供をとのことであった．

昼食は，大学近くのタイ料理店に出かけた．昨夜のスパイシーな香辛料理が脳裏に残っている学生たちは，再びドキドキしながら，エビや生ニラ，薄焼き卵の載ったパッタイを口にした．米粉でできた麺で，春雨の焼きそば風チリソースのような甘い味付けであった．ほとんどの学生たちは，問題なく食べられたようである．

14:00から地域の高齢者宅を訪問した（写真3）．二つのグループに分かれて，独居老人宅（がん手術後の女性宅および脳梗塞後片麻痺のある男性宅）を訪問し，その方たちのアセスメント，看護計画，ケア等について考えた．女性宅にはヘルスボランティアやBCNRの看護学生も実習で訪問しており，日常生活でできる体操や栄養を考えた料理の紹介など様々な介入が壁に掛けられていた．その後，男性宅に学生全員が交流して「カエルの歌」の輪唱をし，元歌手の男性からは笑顔もみられた．道路や家の中には大型犬（野犬）が至る所におり，日本とは異なった光景であった．滞在中は，犬から遠ざかるようになんかなり注意したが，タイでは犬と共存している文化を感じた．18:00からBCNRの学生に英語で自己紹介と交流会をした．BCNRの学生達の夕方の集会にも参加したが，学生は100人を超え

ており，本学部生たちも一人ひとり英語で自己紹介して，「微笑みの国」らしい心温まる交流となった．

4. 研修3日目：水上マーケット，文化施設見学，地域包括センター，などの見学とタイハーブによる伝承薬草専門病院訪問，BCNR学生とダンス交流，高齢者在宅療養者の看護計画立案のプレゼン準備

9:00～13:30まで，水上マーケットと文化施設を見学した．「水の都」と呼ばれるバンコクの運河に浮かぶ水上マーケットを視察した．観光の一つになっており，食料品や日用品，衣料を並べた日本の夜店を少し大きくしたような店がぎっしりと川の両側に並び，観光客に声をかけながら，お互いの交渉で値段が決まる商いをしていた．運河は，果物や日用雑貨，食べ物を船の上一杯に載せた小舟や観光客を乗せた小舟が数珠つなぎに行き交い，船のエンジン音と船主や店の店員の掛け声が賑やかであった．学生達もそれぞれが交渉技術を発揮して，納得した買い物をしていた．続いて，タイの歴史を物語る文化施設Nasatta Parkを見学した．ここはタイの伝統品や偉人を展示し，タイの歴史や文化がわかる施設である．ほとんどの観光客が伝統衣装を身にまとい見学しており，私たちが入り口でタイの民族衣装に着替えて，建物内を見学した．王室関係以外の場所では，自分の気に入った所での記念写真も自由に撮れた．学生達も伝統衣装が良く似合い，揃っての撮影姿は圧巻であった（写真4）．昼食はオープンテラスに並ぶ食堂でタイ料理を選び，胃袋を満たした．

14:00～17:00まで，地域包括センター見学とタイ伝承薬草専門病院を訪問した．タイ保健省が管轄している地域包括センターは，ヘルスプロモーションセンターとしての公衆衛生を担当する4人と看護師2人の計6人のスタッフで運営されていた．その後，タイハーブ・薬草療法を行っている病院を訪問した．漢方薬草を専門とする医師が全身の健康状態を確認した後，施術するシステムとなっていた．1日あたり約150人を対象にタイマッサージ，ハーブ・薬草のサウナ，タッピング，フットマッサージなどで治療しているとのことであった．学生達も，マッサージを受けたりハーブを飲んだり食べたり嗅いだり，ハーブを蒸したサウナに入る体験までした．施設の見学後，薬草治療についての説明を受け，隣接する施設でハーブを欲しい人は買い求めた．帰国後，家族にプレゼントをしてタッピングをしたところ，自然治癒力を引き出す施術によって身体が楽になって喜ばれたとのことであった．

18:00～19:00まで，BCNR学生との交流にあてられ，BCNRの学生の課外活動（タイ伝統舞踊）に参加した．1年次の本学部のフィットネススポーツの授業をバージョンアップしたようなダンスで，BCNRの学生達の上手な踊りと身のこなしはレベルが高く，非常に難しかったが，丁寧に教えてくれたので本学生たちも一生懸命に何とかついて

いけるよう頑張ったようであった。

その後、19:00~21:00まで、在宅高齢療養者の看護計画のグループ討議、およびプレゼンテーションの準備をした。本学の学生は情報処理室を借り、BCNRの学生さんたちとも交流を図りながら、2グループに分かれてPPT作成を行った。BCNRの学生さんは翌日が看護の試験にもかかわらず、嫌な顔もせず、ずっと付きあってくれた(4年生の学生さんには心から感謝)。このようなホスピタリティを学ぶことも海外研修の大事なことと考える。

5. 研修4日目: BCNR学生の朝礼、ラチャブリー総合病院訪問、UHEとBCNRの大学紹介、地域タイのヘルスケアシステム、学生文化交流会

7:40にホテルを出発、7:45~8:00の間、毎日行われている学生の朝礼に参加、BCNRは全寮制で毎朝、国歌が流れる中での国旗の掲揚を行い、各学年で挨拶をするセレモニーに参加した(写真5)。教員の参加はなく、学生が主体的に行う朝礼であった。訪問中に頻繁に記念撮影をしたが、タイでは、想いでの写真撮ることが時間を大切に過ごしていることに繋がるのとことであり、写真撮影を大切にすタイ文化の一端が伺えた。

8:30~9:30まで、英語の授業に参加した。BCNRの男性英語教師は「痛み」についてPPTを使用して、すべて英語で授業を行っていた。BCNRの学生も英語で答えていた。痛みの強さ、種類、原因などリアルに具体的にわかりやすい授業展開であった。学生代表の花光さんが挨拶し、交流を深めた。授業風景とともに記念撮影を行った。

9:50~11:30まで、ラチャブリー総合病院を訪問した(写真6)。ラチャブリー総合病院(病床数700床)はBCNRに隣接し、学生の実習病院となっており、大学から数分間で到着するという恵まれた環境にあった。看護部長から病院の説明を受けたが、看護部長は英語も堪能で、時々日本語を織り交ぜながら、丁寧に説明していただいた。眼科に力をいれているとのことで、眼科病棟および眼科外来、漢方治療の見学をした。病室はかなり広く、病室内の中型冷蔵庫や部屋の壁の色と統一した明るい色の床頭台、ロッカーなど温かみのある病室空間となっていた。個室は1日当たり8500円、2人部屋は2500円とのことであったが、2人部屋にも大きなトイレが、二つ用意されており、同時に利用できるようになっていた。病院の廊下や病室はかなり広い空間であったが、各科の部屋の待合室や診察室は狭く、人で溢れていた。地域住民のための病院で、どんな病気でも医療費は約30バーツ(日本円で約1100円)と安いと、病院運営には国家から1年間で約4000万円の交付があるが、税金で医療費を賄っていることから、日本と同様に、医療費問題は喫緊の課題であるとの事であった。

昼食は、大学から車で10分くらいのところにあるタイ料理の店に行った。スパイシーな料理が多いが、タイ料理に

も慣れてきたのか、ほとんどの学生達は完食した。

13:00~14:00まで、UHEとBCNRの大学紹介を行った。BCNRとUHEの学生双方が英語で大学紹介を行った。本学部生は一人ひとりが自己紹介後、1年間の学生行事(入学式、ウェルカムパーティ、クリスマス会、大学祭、実習施設など)をスライドで紹介した。カリキュラムについては、河野学部長が説明された。

14:00~16:00まで、タイの地域ヘルスケアシステムの現状について紹介。タイは、保健師制度がないため、地域での保健師の役割を看護師が担い、ヘルスボランティアとともにケア介入を行っている。14,000人の地域住民に対し、専門看護師が2人と44人のヘルスボランティアがおり、重度の人から優先的にみる仕組みとなっている。住民の血糖値測定やマラリア・デング熱予防のために、蚊の駆除なども、ヘルスボランティアの役割のようである。日本と同じく高齢化社会となっており、高齢者のほとんどはご自宅で亡くなられ、女性の方が長生きとのことであった。0次予防が今後益々重要となっており、現在力を注いでいる事業や教育は、予防、健康維持・増進、リハビリテーションで高齢者のQOLを優先した取組のようであった。

18:00~20:30まで、学生文化交流会が催された。BCNRの1年生全員と学生会が、本学の学生・教員のために文化交流会を企画してくれた。約150名の学生が大きなホールに座って、前席には本学生たちのテーブルを用意してくれていた。日本語でメッセージを用意してくれており、心から歓迎してくれていることが伝わった。美しい民族衣装を着たタイの看護学生が伝統的な民族舞踊を2種類踊って歓迎してくれた。浴衣に着替えていた本学部生は「涙そうそう」や「夜明けのブルース」を歌った。BCNRのノン先生にも浴衣を着ていただき、明るく元気一杯、BCNRの学生と共に「幸せなら手をたたこう」を歌って大いに盛り上がった。特筆すべきは、本学の2人の男子学生が、BCNRの大勢の女子学生から大歓声で迎えられ、恐らく人生で二度とない思い出になったのではないだろうか。タイは親日国のため、日本のAKBの「フォーチュンクッキー」など他のポップス曲もたくさん流してくれ、タイの伝統的な踊りを教えてもらいながら、河野学部長を筆頭に学生達もみんなで踊って、会場中が大いに盛り上がり、両校の親睦を深めた(写真8)。

6. 研修5日目: ドンタコ病院見学、看護計画発表、フィードバックと海外研修終了証明書授与

8:45 タイの地域ヘルスケアシステムとドンタコ病院を見学した。タイのヘルスケアシステムにおける公衆衛生の現状を、タイ保健省の医師から講義を受けた。日本と同じく高齢化社会を迎え、地域住民の健康を守るプライマリーヘルスケアに力をいれているとのことであった。住民の健康寿命とQOLにも着目しているため、ヘルスボランティ

アと呼ばれる人や僧侶が地域の保健医療を支えていた。僧侶は地域を良く知るキーパーソンであり、精神的なケアにも大きな力を発揮されている。しかし、傷病者の具体的なヘルスケアは看護介入が必要なため、看護師がヘルスボランティアと連携して行っているとのことであった。

昼食は、BCNRの部局長が来られ、学部長や教員とともにタイ料理をいただいた。海外出張から昨夕帰国されたばかりのBCNRの部局長、副部局長らの大学幹部とともに大勢で賑やかなタイ料理の昼食会であった(写真9)。

13:30~17:00まで、今回の海外研修のフィードバックと海外研修終了証明書授与が行われた。BCNRの部局長と副部局長にも出席いただき、ノン先生の司会のもと、学生が訪問した在宅高齢者の看護計画についてPPTと英語で発表した。質問を受け、回答も英語で述べる事ができた。また今回の研修の学びや感想を求められたが、英語で応答でき、コミュニケーションが図れた。その後、BCNRの部局長から、一人ひとりに海外研修終了証明書の授与と記念品をいただき、無事にBCNRの研修が終了した。その後、自由時間となり、この日の夕方は、20時まで学生達を開放した。ラチャブリー最後の夜を満喫できたと思う。

7. 研修6日目: ラチャブリーからバンコク市内に移動

8:30に S.Swiss ホテルを出発 タイの3大寺院である「ワット・プラケオ寺院」を見学した。

広大な敷地内にはチャックリー王朝の国王によって建てられた壮麗な宮殿や仏塔がある。外国人観光客も多く、タイ国民は入場無料とのことであった。タイは美術館なども入場無料になっているとのこと、文化に触れる機会を大切にするという国民性が感じられた。当日は、タイ滞在中で初めての青空のもと、真夏かと思わせる暑さを感じながら、金色に装飾された仏塔や金箔が施された釈迦座像、現在も国王が利用されるという建物も見学した。午後からバンコク市内の自由行動としたが、グループ行動を厳守するように説明した。学生達はタイマッサージを受けたり、トゥクトゥクに乗ったり、家族や友人へのお土産を買ったり、自由時間を満喫したようであった。20:00に、全員の健康状態の確認と明日のスケジュール確認を行った。各自が明朝の出発準備を終えて、5日間のタイ滞在の夢をみながら眠ったことであろう。

8. 研修7日目: バンコクのホテルから空港に移動、松山到着まで

早朝6:15にツインズタワーホテルをチェックアウトし、タイ最後の朝食後、JTBの大型バスで移動した。早朝のため30分足らずでスワンナプーム国際空港に到着したが、早朝以外は大渋滞で1時間はかかるとのことであった。出国手続きもスムーズであったが、セキュリティは非常に厳しく、全員靴を脱いで裸足になって保安検査を通過した。スワンナプーム国際空港内では、お土産を買っているうちに

搭乗時刻を迎えた。機内では、映画を見たり本を読んだり眠ったり、機内食を食べているうちに5時間半あまりの時間は過ぎていった。9:45にスワンナプーム国際空港を出発して、17:55羽田国際空港に全員無事に到着した。羽田国際空港でも出国時と同様に両手の指紋をとっての入国となった。到着ロビーにあるカウンターで松山空港到着後に旅行鞆を受け取る手続きをし、羽田空港に移動した。

羽田空港で解散式を行い、河野学部長から「全員が無事に行って帰れたこと、タイでの研修の学びをいかして後期もさらに元気で頑張ってもらいたい」とのお話をいただいた。全日程通訳もしていただいた河野理恵先生に心からの感謝とお礼を伝えて羽田空港でお別れした。19:40に羽田空港出発して、21:10松山空港に到着した。学科長の奥田泰子教授や学生達のご家族の出迎えを受け、全員無事帰路についた。

帰国後は全員健康状態も問題なく過ごし、9月13日(金)には、国際看護学海外研修の学びレポートおよび事後アンケートが提出され、事前レポートで記された当初の目的を果たしたことが書かれていた。なお、報告会は10月15日(火)16:30から参加学生達が主導で1,2年生を対象に実施する計画となっている。

9. さいごに

本学部の国際看護学海外研修は、今年初めて実施された。当初に海外研修を担当される予定だったアグラ・コリンズ・慈観教授が6月にご退職された時から、河野保子学部長と国際交流委員長の吉村裕之教授、萬家順一事務部長補佐他、学部の皆様方のご尽力のおかげで無事に国際看護学海外研修が実施でき、学生たちが充実した時間を過ごせたことに心からお礼と感謝を申し上げる。とくに、吉村裕之教授には、BCNR国際部長のDr. Nongnuch Wongsawang先生と海外研修のスケジュール確認や招待状のやりとり、学生や保護者への事前説明会など綿密に計画を立案し実施いただいた。また、滞在中もメール等で細やかにご連絡とご配慮いただいたことに感謝申し上げます。目白大学准教授の河野理恵先生には、全日程の通訳をお引き受けただけだけでなく、学生の表情にも細やかな気づきをしていただき(さすが心理学者)、学生への声掛けや会話を広げてくださる姿に深い感銘を受けた。心からお礼と感謝を申し上げます。

「国際看護学Ⅰ」の授業で通訳者の非常勤講師の三原久美先生には、学生達への事前指導にご来校いただき、その後も、メールで学生たちへのスピーチ原稿の確認と添削等、参加学生達が実のある研修になるように大変な時間と労力をいただいた。詳細で的確なご指導と御配慮のおかげで学生達も自信をつけて、英語を使って様々な体験ができた。その御尽力に心から感謝申し上げます。

保護者の方々の御理解と教職員の見守りの中で、本学部

初めての海外研修を無事終えられたことに心から感謝致します。「微笑みの国タイ」での来年度の国際看護学海外研修の履修学生も、充実した研修となるという確信をもって、本学部の海外研修に関わる機会を与えていただいたことに

お礼を申し上げます。今年度、当初の目的に沿って、このようなスタートが出来たことに心からコップン・カー（タイ語で「ありがとう」）。

Report on completing student's visit in Thailand, country of smiles. Journal of Nursing Science in Human Life, 2:40-45 (2019). Meguru Minami, Yasuko Kawano and Hiroyuki Yoshimura (Working group for training international nursing course, Faculty of Nursing Sciences at Matsuyama Campus, University of Human Environments).



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10